



津波シミュレーションの結果が 公表されました

■ お問い合わせ先
町総務課防災安全室（担当・武田）
☎ 32-6700

東 日本大震災を踏まえ、福井県では、県内沿岸市町が津波対策の参考とするための基礎的資料として、津波高や浸水深の計算（津波シミュレーション）を行いました。津波の影響調査は本来国が実施すべきものですが、今回県が独自に実施したものです。

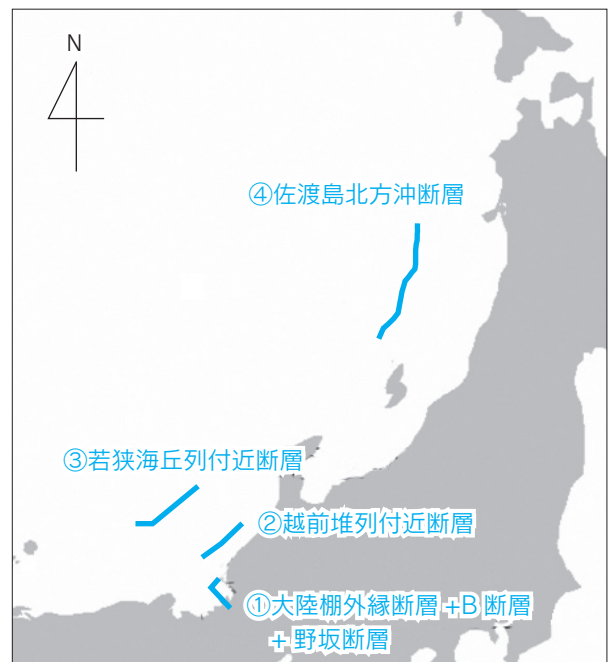
シミュレーションでは、まず福井県に影響が予測される8つの波源（断層）を選定。その中から、特に影響が大きいと予測される4つの波源について、津波高等の計算を行いました。美浜町の沿岸地区の最大波高は次のとおりです。

なお、町では、この結果をもとに美浜町地域防災計画の見直しを進めています。

□ 予測される最大波高

地区名	最大波高	地区名	最大波高
丹生	3.83m	和田	3.51m
竹波	3.42m	郷市	3.32m
菅浜	3.40m	松原	3.42m
北田	3.02m	久々子	2.95m
佐田	2.87m	早瀬	3.85m
山上	2.92m	日向	4.88m
坂尻	5.81m		

□ シミュレーションの対象となった4断層



※津波シミュレーションの詳細については、町ホームページからご覧になれます。

福井県美浜町 [検索](#)



緊急情報伝達試験の再試験を実施します

【日時】 12月12日(水) 午前10時頃と午前10時30分頃の2回

9月12日に実施した全国一斉情報伝達試験において、美浜町では機器の不具合及びメーカーの事前設定確認時の作業ミスにより、防災行政無線から試験放送が流れませんでした。

町民の皆様には多大なるご迷惑とご心配をおかけし、深くお詫び申し上げます。

今日まで代替機器により運用し、メーカーが機器を回収し原因特定のため検証を実施していました。

今回その原因が特定され機器の交換等を実施し、再試験を実施することとなりましたので、大変ご迷惑をおかけしますがご協力をお願いいたします。

美浜町が当日実施する試験は次のとおりです。

情報伝達手段	内容
防災行政無線と音声告知放送	町内58か所に設置してある防災行政無線屋外拡声器と、各家庭に設置してある音声告知放送端末機から、次の内容が一斉に放送されます。 [放送内容] ①「これは、試験放送です」を3回繰り返す ②「こちらは、防災美浜町です」 ③ チャイム

※お問い合わせ先 町総務課防災安全室(担当・武田) ☎32-6700

文化と産業がなびあすに集う!!

みはまナビフェス

11月10日・11日に、みはまナビフェスがなびあすと町役場特設会場で開催されました。

このイベントは、毎年行っている文化祭と産業祭を一つにしたイベントです。

メイン会場となったなびあすでは、町民の皆さんのさまざまな分野の作品展示やステージ発表が行われました。

また、屋外には多くのテントが並び、中に設けられたブースでは、町の農林水産業をはじめとする各産業の特徴を活かした販売や催しが行われました。



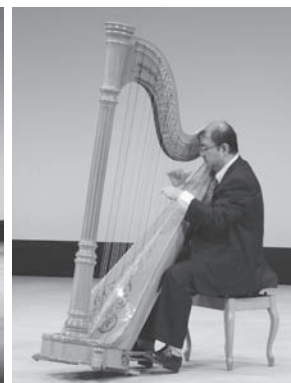
作品展示

▶ 文化サークル、学校からの作品展示や体験コーナーがありました。



ステージ

▶ なびあす文化ホールでは、芸能の祭典と銘打ち、演奏や合唱、ダンス等の発表がありました。



バザーコーナー

▶ 会場内のテントでは、地元でとれた新鮮な魚や野菜等が販売されました。





読書感想文コンクール

入賞者発表

11月10日に、なびあすで美浜町読書感想文コンクールの表彰式が行われました。

今回のコンクールには、143作品の出品があり、審査の結果、次の方々が入賞されました。(敬称略)



▶最優秀賞に選ばれた作品を朗読する

宮下 直士 さん(写真左)と 山東 佑里子 さん(写真右)

最優秀賞

部 門	学校名等	氏 名	作 品 名
1年生の部	美浜北小学校	開発 蒼太	ねこをたすけたけんさん
2年生の部	弥美小学校	熊谷 結成	「どんぐりのき」を読んで
3年生の部	美浜北小学校	宮下 妃海	友だちの大切さ
4年生の部	美浜北小学校	知場 瞭	ぼくの心
5年生の部	美浜北小学校	渡邊 海陽	「あなたがうまれるまで」を読んで
6年生の部	美浜北小学校	宮下 直士	夢をもってがんばるということ
中学生の部	美浜中学校3年	山東 佑里子	私なりの進み方

優秀賞

1年生の部 高木 桂 (菅浜小学校)	3年生の部 山瀬 奏斗 (丹生小学校)	6年生の部 藤原 佑莉 (弥美小学校)
山脇 優舞 (美浜南小学校)	吉本 梨乃 (菅浜小学校)	中学生の部 廣瀬 茜 (美浜中学校3年)
2年生の部 桶野 想乃 (菅浜小学校)	4年生の部 久保 虹葉 (美浜東小学校)	納谷 亜加里(美浜中学校3年)
石丸 陽登 (弥美小学校)	奥村 妃奈 (美浜北小学校)	一般の部 大村 和暉 (美方高等学校)
	5年生の部 浅妻 智樹 (美浜南小学校)	

入 選

1年生の部 中島 武蔵 (菅浜小学校)	井上 美玖 (美浜北小学校)	中学生の部 浅妻 大樹 (美浜中学校2年)
木下 珠佑 (弥美小学校)	5年生の部 由利 ほたる (美浜東小学校)	繁田 祐香 (美浜中学校2年)
2年生の部 中村 香里 (菅浜小学校)	大同 恒正 (弥美小学校)	寺川 史菜 (美浜中学校2年)
大野 夏未 (弥美小学校)	原田 詩音 (弥美小学校)	米澤 綾花 (美浜中学校1年)
3年生の部 川原 優一郎 (弥美小学校)	志賀 早耶香 (美浜北小学校)	田邊 明奈 (美浜中学校1年)
久保 来人 (新庄小学校)	6年生の部 岩本 大輔 (菅浜小学校)	一般の部 小川 穂乃香 (美方高等学校)
脇田 蓮太郎 (美浜南小学校)	田邊 みな (美浜東小学校)	家族の部 白井 優美 (美浜東小学校4年)
4年生の部 原 立成 (美浜東小学校)	久保 悠斗 (美浜東小学校)	白井 早苗 (佐田)
鳥居 千鈴 (美浜東小学校)	石丸 七夕佳 (弥美小学校)	

美浜発電所の状況



今回の報告では、10月19日から11月16日までの美浜発電所の状況等についてお知らせします。

山口町長が町議会とともに革新的エネルギー・戦略等に対する意見を国に要請

10月26日、山口町長は町議会の北村議長をはじめ、藤本副議長、原子力発電所特別委員会の飯田委員長、松田副委員長とともに、経済産業省や内閣府等の関係機関に要請活動を行いました。

今回の要請は、これまで半世紀に亘って安全・安心を追求しつつ、国のエネルギー政策に協力し、原子力発電所との共生を進めている町として、去る9月14日に公表された、2030年代原子力発電所稼働ゼロとする「革新的エネルギー・環境戦略」は受け入れ難く、その戦略の見直しと、原子力発電所の長期停止による立地地域支援等について要請したものです。

【要請項目】

- ① 40年運転制限制限にかかる科学的、技術的根拠の説明
- ② 安全が確認された原子力発電所の早期再稼働
- ③ 原子力発電所の新設・増設
- ④ 長期停止に伴う立地地域支援
- ⑤ 電源三法交付金制度の維持等、立地自治体への支援の継続と拡充

⑥ 企業（産業）誘致等に向けた支援制度
当日、経済産業省で面談した松宮経済産業副大臣は、この要請に対して、

① 法令では、40年を越えるものであっても、安全性が確認されれば、20年を上限として延長が認められている。古いかどうか一律同じでなく、安全かどうかで延長が決まる。よって、40年で終わりということではない。

② 現在、原子力規制委員会が新しい安全基準の作業を進めており、来年3月頃には、その原案が示され、7月にはできるものと見ている。再稼働は、その安全基準に基づくものと考えており、原子力規制委員会の安全審査を終えた際には、電力の安定供給の責任は持つ立場として、しっかりと対応させていただく。

③ 戦略で謳われている2030年代原子力発電所稼働ゼロは、あくまでも目標であり、太陽光発電や風力発電等の再生可能エネルギーが進むとも限らない。よって、今後議論を重ね、不断に見直していく。

④ 再稼働できない時間が長引けば長引くほど、民宿や商店街、協力会社の方々への影響が大いことは認識しており、これは、全立地自治体の共通の課題として支援策の検討を重ねる。

ねている。国では、福井県で実施している雇用対策以外にも、何かないか真剣に考えている。

⑤ 平成25年度の交付金は、従来どおり予算要求しており、その後も継続するものと考えている。

⑥ 企業立地は、既存の助成制度をはじめ、税制上の優遇措置を活用していただきたい。福井県では、産業集積計画を進めているので、県と連携しながら企業誘致に取り組んでいたきたい。

と答えました。

町では、今後も町議会と連携しながら、原子力発電を取り巻く課題や問題に取り組んでいきます。



↑ 松宮経済産業副大臣に要請書を渡す山口町長ら

第25回定期検査中

（平成22年11月24日）

美浜1号機

第27回定期検査中

（平成23年12月18日）

美浜2号機

第25回定期検査中

（平成23年5月14日）

美浜3号機

町原子力環境安全監視委員会が宮城県女川町等を視察

町原子力環境安全監視委員会は、10月30日から11月1日にかけて、宮城県女川町と東北電力(株)女川原子力発電所を視察しました。

昨年3月に発生した東日本大震災により壊滅的な被害を受けた宮城県女川町では、地震発生当時の状況を伺うとともに、女川町の住民の方々と意見交換を行いました。
意見交換で委員からは、

問1 地震直後の住民への周知方法と、放送の仕方はどうしたのか。

問2 発電所からの第1報は、どのように入ったのか。

問3 町では原子力発電所の情報をどのように収集していたのか。また、住民への情報提供はどのようにしていたか。

等、さまざまな質問が出され、これらの質問に対し、女川町の方々は、
答1 住民へは、防災行政無線(屋外)と、個別受信機(屋内)で周知した。放送は、大津波警報出る前から開始した。住民全員が、すべてを聞き取れたかは不明だが、ある程度周知できたと考えている。放送は、始めはマニュアル通りだったが、時間が経つ

につれ、状況に応じたメモで放送。大津波が押し寄せる直前は「逃げる」としか言えなかった。海が見えない山側の人は、無線や受信機から聞こえる悲鳴のようなアナウンスで避難したと聞いている。

答2 地震後に役場は非常用電源が稼働し電話が使用できた。発電所のホットラインが地上回線が覚えていないが、地震後すぐに発電所から安全に停止したとの連絡を受けた。

答3 町の災害対策本部に東北電力(株)の社員に出席してもらい、常に情報提供を受けていた。また、住民には、事業者が避難所に掲示物を張り出したほか、民間で設立した「女川災害F」でも放送していただいた。と答えました。



↑壊滅的な被害を受けた女川町沿岸部を視察する委員

また、東北電力(株)女川原子力発電所では、地震当時の状況を伺うとともに、震災後に設置した防潮堤等を視察しました。

冒頭の説明では、地震直後、発電所に避難を要請してこられた近隣の住民を積極的に受け入れ、体調を崩した妊婦や高齢者をへりで病院に移送したこと等が紹介され、また、当時約13mの大津波が押し寄せたにも関わらず、安全に原子炉が停止した理由として、建設当時、地域住民の声に耳を傾け、言い伝えのあった津波に対応できるよう敷地の嵩上げを実施した結果、浸水を免れたとの説明も受けました、

現地視察後、委員からは、

問1 非常に判断が難しいと思うが、国の方向性が見えない中、女川発電所はどの辺を目途に再稼働できるのか。

問2 福島事故後、3mの防潮堤を設置し17mまでの津波にも対応できるようにしたが、今後の対策についてどのように考えているのか。

問3 ヒューマンエラーを防ぐ訓練は実施しているのか。

等の質問が出され、これに対し、東北電力(株)は、

答1 地震による被害により、タービンの調整等、常用設備を修理してい

る段階なので、まだ時間がかかる。

答2 想定を越えるものは来るものと考えて不断の努力を続けていく。これからは、言わば潜水艦工事。まずは、浸水を防ぐための防潮堤。また、もし仮に乗り越えてきた場合に備え、水密性を高める。その他、機器・設備については、高台に配備する。

答3 ヒューマンエラーは非常に範囲が広いが、女川発電所で起こしてしまったこと、また、他の原子力発電所であつたことも含めて、発電所内で情報を共有し、ヒューマンエラー防止の徹底を図る。

と説明されました。

町原子力安全環境監視委員会では、今回の視察で得られた知見を今後の委員会活動に取り入れ、美浜発電所の安全対策等の確認に努めます。



↑東北地方太平洋沖地震直後の状況を説明する津幡女川原子力発電所長